お札と切手の博物館ニュース

Banknote and Postage Stamp Museum News

Contents

特　　集　紙幣寮と消防

お知らせ　1階常設展示に新コーナーいろいろ

シリーズ　世界のお札と切手をたずねて⑥

2023/12/1

Vol. 53

紙幣寮と消防

令和5(2023)年は、関東大震災から100年目に当たる節目の年であることから、災害や防災に関する話題が多く取り上げられました。
国立印刷局は、紙を扱う印刷事業を主とする組織であることや、作業上、火を扱うことが多くあったため、火災には特に注意を払ってきた歴史があり、早くから消防に関わる規則の制定や環境整備に着手しています。
ここでは、国立印刷局の明治期の消防対策について取り上げたいと思います。

大火事の発生と消防体制の確立

国立印刷局は、明治4(1871)年に大蔵省内に紙幣司（同年中に紙幣寮と改称）として創設されました。

当初は、神田橋御門内旧姫路藩邸（現東京都中央区大手町一丁目）（図1）の大蔵省内にありましたが、この年の12月に八重洲河岸の土木測量所跡（現東京都中央区丸ノ内二丁目）に庁舎を構えました。

最初に被災したのは、明治5年2月の銀座大火と呼ばれる東京の中心地を焼き尽くした大火事でした。和田倉門内の兵部省添屋敷（皇居外苑）を出火元とし、西北の風に煽（あお）られた火は、丸の内地域を経、銀座、築地まで広がり、95万400平方メートルを焼き尽くしています。この火災で紙幣寮の庁舎は全焼してしまいました。

図1　明治4年ころの大蔵省（神田橋御門内旧姫路藩酒井雅楽守忠邦邸跡）
出典：財務省広報誌ファイナンス
（平成30年1月号特集「庁舎の変遷にみる財務省の歴史」）

このとき、紙幣寮の倉庫にドイツに発注していた新紙幣などが保管されていましたが、当日の当直であった青江秀（ひいづ）※等が倉庫の窓や扉の隙間（すきま）を泥土で塗り込めて（目塗）、倉庫に火が入るのを防ぐなど必死の防火活動を行い、類焼を防ぎました。ちなみに青江ほか消火に尽力した370名については、後に賞与を下賜されています。

※当時は、インキ製造事務を担当。郵便はがきの名づけ親としても知られる。

東京ではこの大火以降、幾度も火災が発生しており、紙幣寮では、管理・保管する紙幣の量が増大していることもあり、消防体制の構築は喫緊の課題でした。

明治7年に紙幣頭（しへいのかみ）（紙幣寮の長）となった得能良介（図2）は、同年7月に火災防禦（ぼうぎょ）規定を制定しました。こ

図2　得能良介

の規定では、43名の職員が先導役を割り振られ、そのうち3名が総指揮役で、残りの40人は、4人ずつ10組に分かれて各組のリーダーとなるよう定められています。そして、各組のリーダーたちは、その場に居合わせた職員、または、現場に駆け付けた職員たち20名を自組の要員として差配し、道具等（図3）を支給したうえでそれぞれの受け持ち地区の消火活動に当たらせることとなっていました。

また、明治10年の職工規則には、「非常の節は、速やかに駆け付け、部中役員の指令に従い、器械物品取片付けその他消防等尽力すべし」との条文に続けて「但し尽力したる者は相当の賞与をなすべし」と記しており、褒賞を出すことで積極的な消火活動を勧奨していることが分かります。

さらに、得能は警視庁に掛け合い、消火活動や警護に従事する140名を協力要員として指名し、万一の場合に備えました。明治9年5月には寮内に非常駆付職を置き、倉庫の目塗要員として5名を任命しています。

図3　明治期に使用された布製の消火バケツ

（参　考）東京大手町にあった工場前庭で行われた非常訓練　明治36（1903）年頃
職員の衆目のなか放水実演が行われている。
なお、明治32年に設置された消火栓から取水したと思われる。

最新器具の導入と地域貢献

消防設備面では、かねてからフランスに発注していた最新式の腕用消火ポンプ3台が明治7(1874)年8月に到着し、紙幣寮内に設置されました。この器具は、当時警視庁で購入されていたものと同様のもので、江戸時代以来消防器具として使用されていた竜吐水（りゅうどすい）と呼ばれる木製ポンプと比べてはるかに消火能力が高いものでした。

この器具の設置にあたり、警備担当職員6名が警視庁で使用方法について研修を受け、寮内の消防従事者らによる模擬訓練が行われました。

なお、明治10年に明治天皇皇后両陛下が工場を天覧した際にはポンプの放水や登梯技を披露しています。

また、実地訓練として、明治12年12月に起こった日本橋区箔屋町（現東京都中央区日本橋三丁目）が出火元の大火では、得能の命により現場にポンプを運び入れて消火活動を行い、数か所において延焼を食い止めました。得能は、役員2名と共に現場に赴いて消火活動の様子を視察し、このポンプの消火能力を確認したといいます。

紙幣寮職員による消防隊は、その後も火災の際に他官庁のほか市中に出向いて消火活動に従事しました。特に消火ポンプを持たなかった王子村では、紙幣寮抄紙部による消火活動によって被災を免れた人々から紙幣寮に対して多大な謝意が寄せられました。

日々の業務においても火の用心は厳重に行われていました。工場には定められた場所以外に火鉢や煙草の持ち込みが禁止であった（図4）ほか、工場で使用した引火性のあるボロの取り扱いもブリキの缶に入れて守警（警備職員）の立ち合いのうえでの受け渡しを行うことが決められていました。

得能による数々の火災対策は、紙幣寮を焼失させることがあれば、自ら火中に飛び込み焼死するという覚悟を持っていたと当時の部下が証言するように、万が一保管する紙幣を損失させてしまう事態が起こった場合、一国の経済に影響を及ぼすこととなることから、紙幣を預かる責務をなにより重く感じていたためでした。

明治時代初期の火災対策は、火災予防や初期消火を重視したものであり、未曾有の大地震である関東大震災にはなす術なく、工場は全壊するとともに地震による火災で焼失することとなってしまいました（図5）。

（学芸員　松村記代子）

図4　写真科日誌　明治13(1880)年7月
工場の彫刻部写真科の業務日誌。
7月27日の条では、始業時に貸し出された火鉢と煙草盆各2個が終業時には押印のうえ返却されており、厳密に管理が行われていたことがわかる。

図5　関東大震災に伴う火災によって損壊・焼失した工場

お知らせ

1階常設展示に新コーナーいろいろ

新しいお札が2024年7月前半を目途に発行を予定していることにちなみ、本年7月19日から8月27日まで『お札が変わる!なぜ変わる?お札の知られざる歴史を探ろう』と題して、日本の改刷（かいさつ）（お札の製造技術やデザインを新しくして発行すること）をテーマに特別展示を開催しました。

本展では、新しいお札についても取り上げ、新しく採用された偽造防止技術の紹介や見本券の実物展示を通して情報提供を行いました。

この特別展示の終了後は、1階常設展示において、新しいお札の紹介コーナーを設置し、引き続き新しいお札について展示を行っています。

このコーナーでは、見本券を始めとし、デザイン原図や肖像下図（複製）の展示など新しいお札の製造にまつわる展示を充実させ、新しいお札の発行に対してより興味・関心を覚えるような内容としています。

新しいお札の展示コーナーとともに新設したのは、Q&Aコーナーとフォトスポットです。

Q&Aコーナーでは、お札にまつわるクイズが書かれたシートをめくるとその答えを確認できます。シートをめくって見ることで隠された答えを発見する楽しさも味わえます。

そして、フォトスポットは、ARアプリを利用しています。

表示している二次元コードを携帯電話などの通信端末で読み取り、Webカメラを起動させると、東京都北区のキャラクターである「しぶさわくん」を撮影画面に呼び出すことができます。ちなみに「しぶさわくん」のモデルは、新しい一万円札の肖像となった渋沢栄一です。

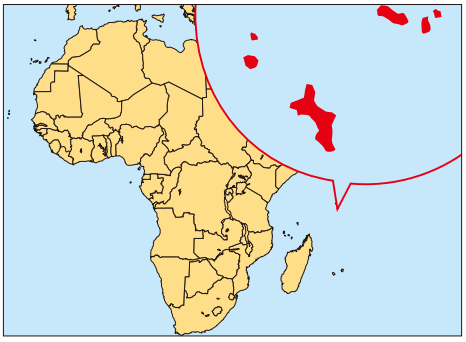
「しぶさわくん」のポーズは全部で5種類あり、撮影するたびに違った姿の「しぶさわくん」が現れるので、つい何度も撮影したくなってしまいます。

ご来館の記念に、ぜひ「しぶさわくん」と一緒に撮影してみてはいかがでしょうか。

このように、このたび新しいお札について知っていただくとともに体験を伴う新コーナーも備わり、より楽しみながらご観覧できるようになっています。

このコーナーでは、世界各国が発行するさまざまなお札や切手を取り上げ、各国のお国柄や文化、歴史などの情報をご紹介します。

世界のお札と切手をたずねて⑥



●セーシェル
固有種の宝庫

アフリカ大陸の東、インド洋に浮かぶ島国・セーシェルは、115の島で構成されています。1000年もの間孤立していたことから、世界的に珍しい固有の動植物が数多く生息する地であり、その手つかずの自然、美しい風景から、「地上最後の楽園」「インド洋の真珠」とも呼ばれています。

セーシェルのお札には、1券種に何種もの珍しい動植物が登場します。その名に国名が冠してあるものが多いことから、セーシェルの固有種であることが分かります。これらがどこに描かれているか探すのも楽しく、さながら図鑑のようです。

図1　500ルピー（表裏）　2016年
①セーシェルチョウゲンボウ、②タコノキ、
③フタゴヤシ、④カメ、⑤セーシェルコノハズク、
⑥セーシェルショウジョウバエ、
⑦セーシェルタイガーカメレオン、⑧セーシェルビリンビ

図2　切手
①セーシェルチョウゲンボウ　3.50ルピー　1972年
③フタゴヤシ　15セント　1978年
フタゴヤシは、世界最大（50～60センチ、20～30キロ）の種子をつける植物として知られる。その種子は他にはないユニークな形で、セーシェルの２つの島にのみ自生する。セーシェルの国章にも描かれている。
⑤セーシェルコノハズク　20セント　1972年

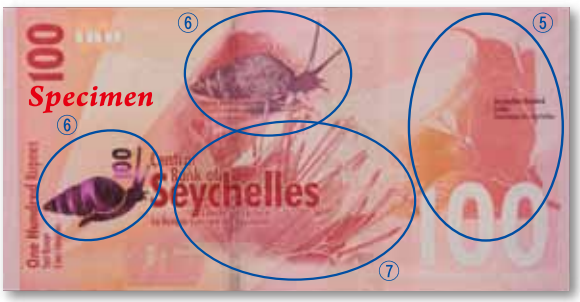


図3　100ルピー（表裏）　2016年
①セーシェルサンコウチョウ、②セーシェルアシナシイモリ、③トベラの一種、
④セーシェルジャイアントブロンズゲッコー（ヤモリ）、⑤セーシェルタイヨウチョウ、
⑥セーシェルバンディドスネイル（カタツムリ）、⑦アカネの一種

図4　切手
①セーシェルサンコウチョウ　20セント　1976年
黒く長い尾羽を持つオスと、背中が茶色いメスが描かれている。
⑤セーシェルタイヨウチョウ　1.25ルピー　1976年

●スイス

独創的なデザイン

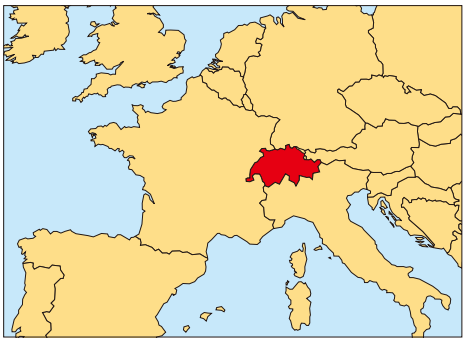


図5　10フラン　1995年
建築家のル・コルビュジエ（1887-1965）が描かれている。

2023年現在、世界のお札の中で最も変わったデザインの国はどこ？と問われれば、迷わずスイスと答えます。それほど、スイスのお札は異彩を放っています。

以前のお札（図5）は、文化人の肖像が描かれ、オーソドックスともいえるものでしたが、ヨーロッパでは珍しい縦型デザインでした。現在のお札は、縦型はそのままに、デザインコンセプトが「スイスの多様な側面」へと変わって、肖像の代わりに人の手の様々な動きが取り上げられています（図6～図9）。お札の表面では手の動きを、裏面ではスイス各地の風景などを描くことで、それぞれ「時間」、「光」、「風」、「水」といった抽象的なテーマを表すシリーズとなっています。

図6　「時間」を表すお札　10フラン　2017年
表：指揮棒でテンポをとる手、標準時間帯を記した地球
裏：スイスの強い組織力を表す時計のムーブメント、正確な時間で運行するスイスの鉄道のトンネル

図7　「光」を表すお札　20フラン　2017年
表：プリズムによる光の分散、地球上の星座
裏：自然の多様性を表す蝶の羽の色、創造性を表す映画の光

図8　「風」を表すお札　50フラン　2016年
表：タンポポの綿毛を持つ手、スイスと大陸に関連する風の向き
裏：スイスの観光資源を表す山のパノラマ風景、風が山高くまで飛ばすパラグライダー

図9　「水」を表すお札　100フラン　2019年
表：水をすくう手、等圧線を引いた地球
裏：スイスの人道主義への努力を表す灌漑水路（雪解け水の供給）

珍しいのはお札だけではありません。スイス郵政は、芸術をテーマとした切手や、芸術促進のための取組として、一風変わった切手も企画し、発行しています（図10～図12）。

図10
100サンチーム　2015年
人間の皮膚をモチーフとしたデザインを表現するため、用紙にしわ加工を施した切手。色、質感ともなかなかに精巧な仕上がり。

図11
100サンチーム
2021年
未完成の作品を表す真っ白のデザイン。キャンバス地（布）でできている。

図12　110サンチーム　2022年
クロロフィル（葉緑素）の色素を使った切手。光や経年により色が変化するという。

（学芸員　土井 侑理子）

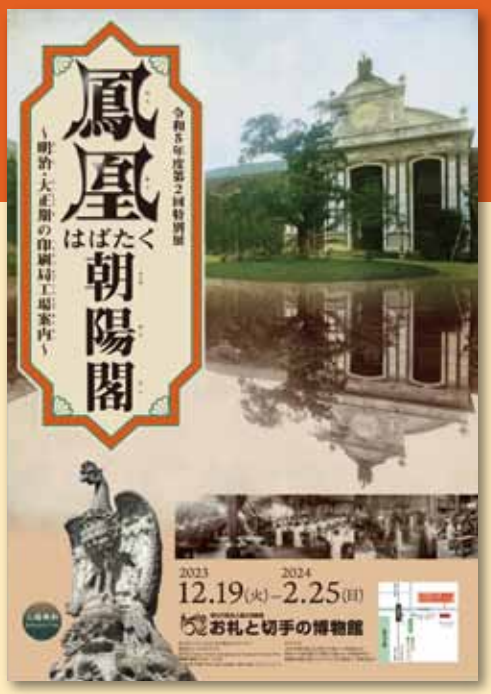
COMING SOON
展覧会予告

令和５年度第２回特別展

鳳凰はばたく朝陽閣

明治・大正期の印刷局工場案内

2023.12.19（火）▶2024.2.25（日）



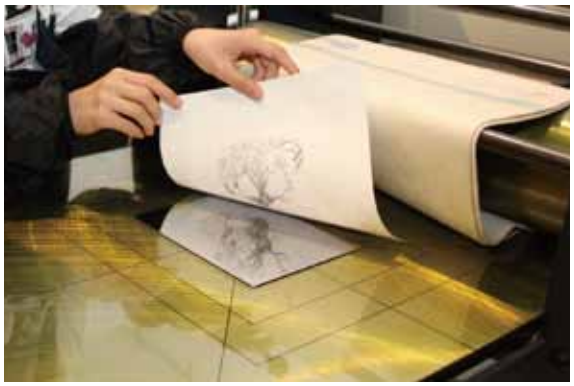
朝陽閣とは、明治9（1876）年、東京・大手町に印刷局が建設した工場の呼称です。その外観は、赤レンガ造りのモダンな西洋建築で、当時大きな話題となる一方、その内部では、最新の機械設備を備え、西洋式印刷技術を駆使して、お札や切手等の製造を一手に担っていました。朝陽閣は、新たな東京名所として、また先進技術のパイオニアとして、名実ともに評判を呼びましたが、大正12（1923）年の関東大震災によって、惜しくもその姿は永遠に失われてしまいました。

本展では、震災から100年を迎え、改めて朝陽閣の優美な姿や当時の風景、業務内容を多種多様な絵画や写真資料とともに振り返ります。ぜひご覧ください。

また、会期中の1月～2月中には、以下の期日に凹版印刷体験イベントも実施します。ふるってご参加ください。

イベント 凹版印刷体験

お札に使われる印刷方式「凹版印刷」を体験できます。
完成した印刷物は、記念にお持ち帰りいただけます。



所要時間 体験時間約20分+乾燥時間約10分

開催日時 以下の各日 10:00～12:00（受付開始9:50～）
13:20～16:00（受付開始13:10～）

1月 19日（金）、20日（土）、21日（日）、26日（金）、27日（土）、28日（日）

2月 2日（金）、3日（土）、4日（日）、9日（金）、10日（土）、12日（月）、16日（金）、17日（土）、18日（日）、23日（金）、24日（土）、25日（日）

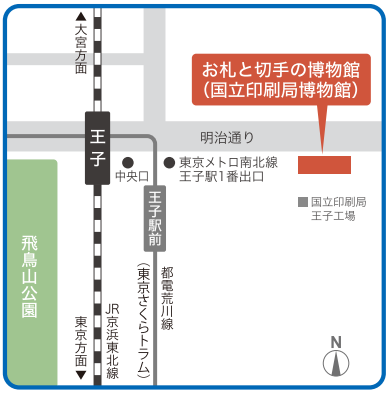
※体験当日の午前と午後に受付を行います。体験には約30分程度の時間を要するため、早めに受付を終了する場合があります。ご了承ください。
※体験の対象者は小学生以上とさせていただきます。

ご利用案内

入館無料
開館時間：9:30-17:00
休 館 日：月曜日（祝日の場合は翌平日）
年末年始、臨時休館日

交通
JR京浜東北線「王子駅」（中央口）下車 徒歩3分
東京メトロ南北線「王子駅」（1番出口）下車 徒歩3分
都電荒川線（東京さくらトラム）「王子駅前」下車 徒歩3分
＊駐車場はありません。

常設展
新しい日本銀行券の紹介
偽造防止技術の歴史―印刷・製紙技術
重要文化財 スタンホープ印刷機
お札の移り変わり/世界のお札/
切手の移り変わり/世界の切手/
国立印刷局の歴史/世界のめずらしいお札/
お札の芸術
＊特別展開催時は一部展示の変更があります。



独立行政法人 国立印刷局
お札と切手の博物館
〒114-0002 東京都北区王子1-6-1
TEL.03-5390-5194
https://www.npb.go.jp/ja/museum/index.html
お札と切手の博物館 検索

発　行：お札と切手の博物館（国立印刷局博物館）
発行日：令和5年12月1日

©2023
本書掲載の内容を許可なく複写、複製、転載することを禁じます。

※この冊子は再生紙を使用しています。